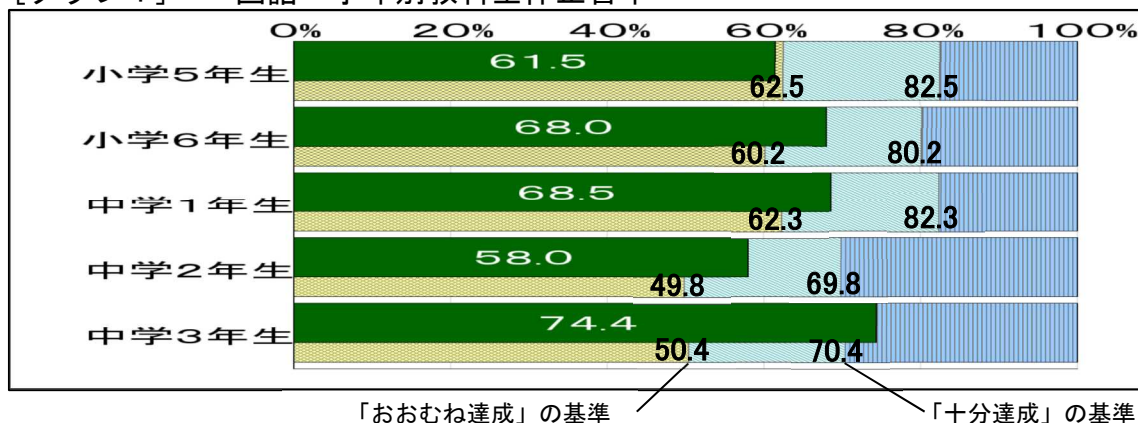


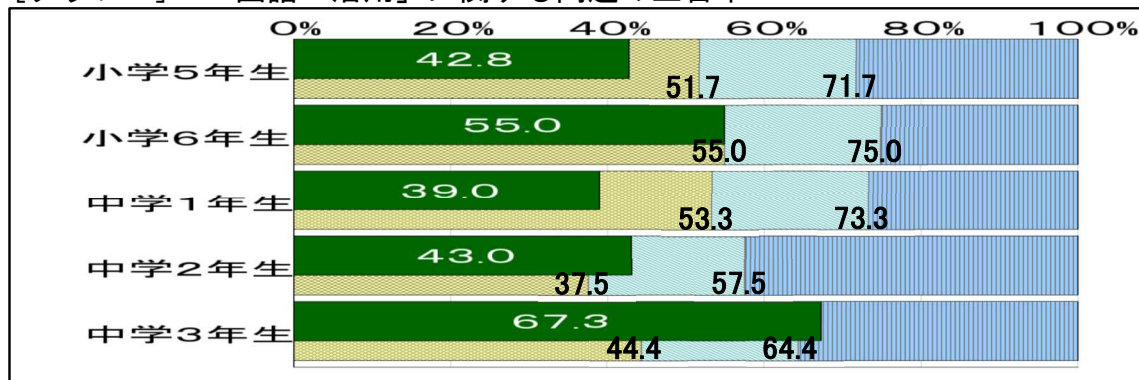
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、中学3年生で「十分達成」の基準を上回っている。小学6年生と中学1年生、2年生で「おおむね達成」の基準を上回っているが、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、中学3年生で「十分達成」の基準を上回っている。小学6年生と中学2年生は、「おおむね達成」の基準を上回っている。小学5年生と中学1年生で、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ2】
- 観点別に見ると、中学3年生は、全ての観点で「十分達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」「知識・理解・技能」の観点については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っており、「読む能力」の観点については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「書く能力」「読む能力」については、小学5年生と小学6年生、中学1年生が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ3～6】
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「語句に関する知識」については、小学5年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ7～11】

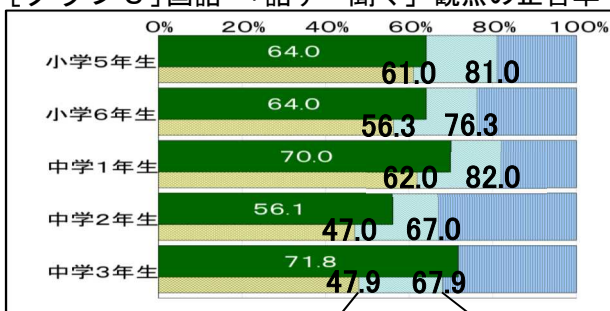
【グラフ1】 国語 学年別教科全体正答率



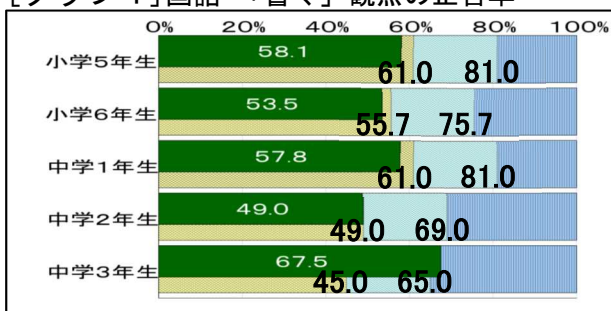
【グラフ2】 国語「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3] 国語 「話す・聞く」 観点の正答率



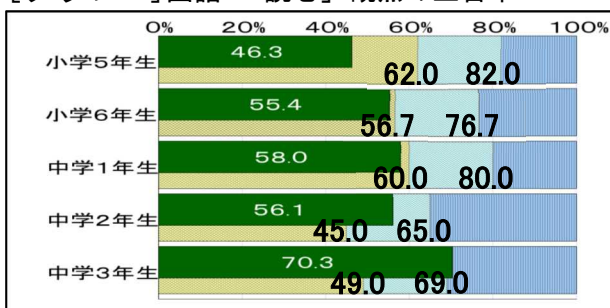
[グラフ4] 国語 「書く」 観点の正答率



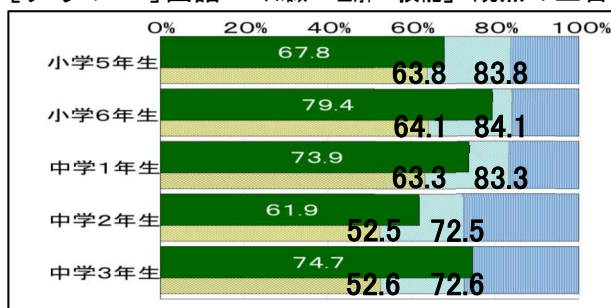
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

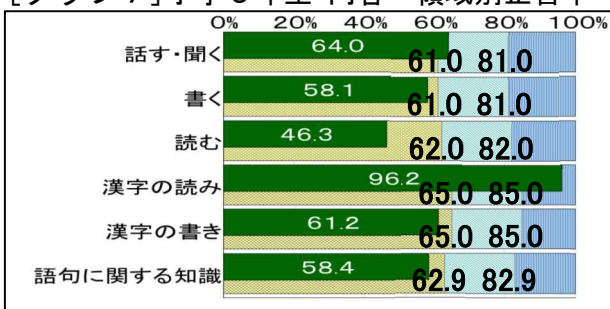
[グラフ5] 国語 「読む」 観点の正答率



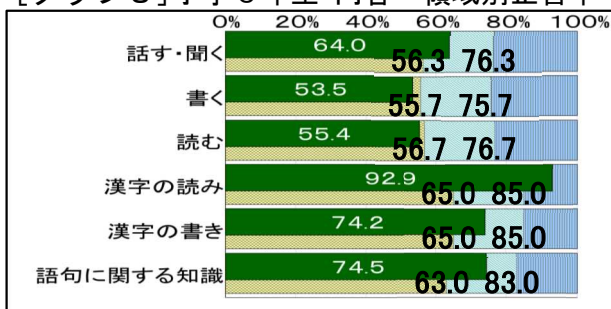
[グラフ6] 国語 「知識・理解・技能」 観点の正答率



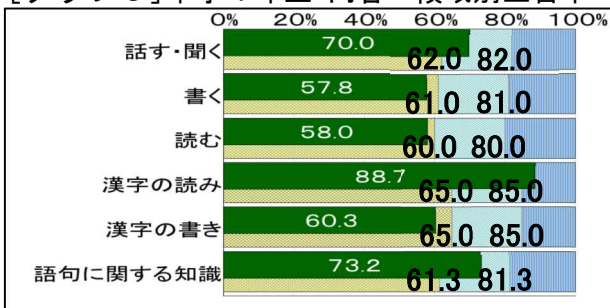
[グラフ7] 小学5年生 内容・領域別正答率



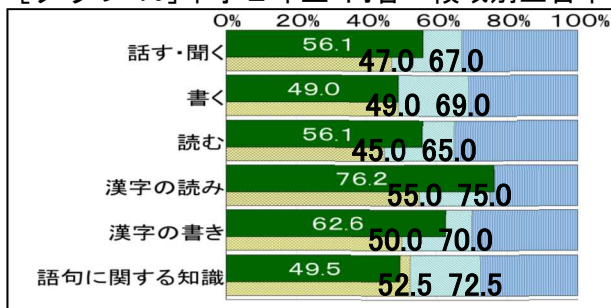
[グラフ8] 小学6年生 内容・領域別正答率



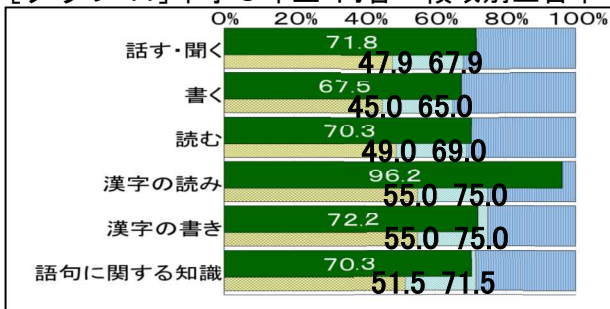
[グラフ9] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、小学6年生、中学1年生）


成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 考えたことや聞き出したことから話題を決めたり、目的に応じて話の構成を工夫したりすることができている。(中学1年生¹二、四)
- ◇ 平成28年度[12月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた「登場人物の気持ちを捉えること」を問う設問が、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。(小学6年生B問題³一)
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことについては、相当数の児童ができている。(小学5年生⁵一、小学6年生A問題⁷346、中学1年生⁵一)
- ◆1 メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書いたり、図を基に、自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。(小学5年生²五、中学1年生²四)
- ◆2 段落相互の関係を捉えたり、文章の内容を的確に押さえたりすることに課題が見られる。(小学5年生⁴一、中学1年生⁴一)
- ◆3 物語を読み、具体的な叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えたり、自分の考えの理由を明確にしてまとめたりすることに課題が見られる。(小学5年生³二、小学6年生B問題³三)

平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆1 メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く力を育成するためには、取材した事柄や調べた内容をまとめたメモを基に、記事を書く活動を設定する必要がある。その際には、取材した事柄や調べた内容の中から、文章の中心となる情報を取捨選択させ、適切な接続詞や文末表現を使って、読み手に分かりやすい記事となるよう考えて書かせることが大切である。また、図を基に、自分の考えを書く力を育成するためには、図表やグラフから情報を読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて書く活動を設定する必要がある。その際には、図表やグラフと文章を関係付けながら読ませ、読み取ったことを的確に表現することができるように指導することが大切である。さらに、書くことの指導では、字数や文末表現などの条件を設定して、条件を満たした文を書く活動を計画的に取り入れることも大切である。
- ◆2 段落相互の関係を捉える力を育成するためには、文と文、段落と段落の関係を押さえながら文章全体の内容を捉えさせることが必要である。具体的には、事実や意見などを区別させたり、それらの関係を捉え、図や表などに構造的にまとめさせたりすることが大切である。また、文章の内容を的確に押さえる力を育成するためには、理由や根拠、筆者の主張などが書かれている形式段落や文と文のつながりを捉えさせて読ませることが必要である。具体的には、中心となる語や文に着目させ、文章に何が書いてあるのかを明確にしながら読ませていくことが大切である。
- ◆3 叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えたり、自分の考えの理由を明確にしてまとめたりする力を育成するためには、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係付けたりして読ませることが必要である。さらに、高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。その際、目的を明確にさせて叙述を読ませ、自分の考えをまとめさせるように指導することも大切である。具体的には、読んで考えたことを発表し合ったり、本の帯を書いたりすることを言語活動として位置付けて、叙述と自分の考えを関係付けながら、印象の残った場面を紹介させることなどが考えられる。

 ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「単元で学び、単元で力をつける」をキーワードにした授業づくり、第4・5・6学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校国語（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することができる。
(中学2年生⁵一、中学3年生A問題⁶一、B問題¹二)
- ◇ 話の論理的な構成や展開に注意して聞いたり、必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理したりすることができる。
(中学2年生²二、中学3年生B問題²二)
- ◇ 集めた材料を分類、整理して文章を構成することができる。
(中学2年生³一、中学3年生B問題³一)
- ◆1 話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手に分かりやすいように語句を選択して話したりすることに一部課題が見られる。
(中学2年生¹二、中学3年生A問題⁷一)
- ◆2 書くにあたって必要な情報を集めるための見通しをもったり、情報を因果関係に基づいて整理したりすることに一部課題が見られる。
(中学2年生³三、中学3年生B問題³三)
- ◆3 表現の仕方について捉え、自分の考えをまとめることに一部課題が見られる。
(中学2年生⁵三、中学3年生B問題¹三)

指導改善のポイント

- ◆1 話合いの話題や方向を捉えて的確に話す力を育成するためには、話合いの相手や対象、目的を理解し、それに応じて話すことができるように指導することが大切である。そのためには、授業の中で互いの発言を検討したり、合意形成をしたりする場面を設定することが必要である。また、相手に分かりやすいように語句を選択して話す力を育成するためには、話合いの中で聞き手の話の受け止め方を考え、適切な語句の選択をして話すことができるように、相互評価や振り返りを活用し、相手意識を育てることも大切である。
- ◆2 書くにあたって必要な情報を集めるための見通しをもつためには、生徒が必要な情報を調べる活動を行う際に、目的や意図に応じた適切な調査方法について、生徒自身が考え、選択することができるようにすることが必要である。文献調査やインタビュー、アンケートなどの調査方法について教科書の巻末資料などを用いて、事前に学習を行わせ、それぞれの実施方法や気を付けるべき点を理解させておくことも大切である。情報を因果関係に基づいて整理する力を育成するためには、因果関係を図にすることが大切である。生徒が自らまとめることができるようにするためにロジックツリーやボーン図など思考ツールを板書で活用し使い方を示した上で、生徒が因果関係を図にする学習活動を行うことも考えられる。
- ◆3 表現の仕方について捉え、自分の考えをまとめる力を育成するためには、表現の技法のような基本的な知識については、ワークシートなどにまとめて生徒に渡しておき、折に触れて確認させるようにして知識の定着を図ることが大切である。生徒に自分の考えをまとめさせるためには、生徒が課題意識をもって、主体的に読み進めることができるような単元づくりが必要である。そのためには、例えば、「登場人物を人物描写によって分析し、人物紹介リーフレットを作ろう」のように、指導事項（人物描写）、思考操作（分析）、言語活動（人物紹介リーフレット）を学習課題の中で明示し、生徒に学習計画を作成させることが必要である。また、そのような単元を、年間計画に系統的に位置付けて計画的・継続的に指導を行うことが大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組みました。「学習課題設定の工夫」や「主体的な学習を促す言語活動の工夫」をキーワードに、「読むこと」の領域の第1・2学年の実践事例や「ワークシート」について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,424	61.5	4.9	82.5	62.5	▼

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	64.0	1.3	81.0	61.0	
	書く	5	58.1	2.8	81.0	61.0	▼
	読む	5	46.3	4.4	82.0	62.0	▼
	漢字の読み	3	96.2	2.0	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	61.2	8.8	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	7	58.4	8.7	82.9	62.9	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	64.0	1.3	81.0	61.0	
	②書く	5	58.1	2.8	81.0	61.0	▼
	③読む	5	46.3	4.4	82.0	62.0	▼
	④知識・理解・技能	13	67.8	7.2	83.8	63.8	
問題形式	選択式	13	58.9	2.1	84.2	64.2	▼
	短答式	12	69.1	7.8	83.3	63.3	
	記述式	3	42.8	5.2	71.7	51.7	▼
活用	「活用」に関する問題	3	42.8	5.2	71.7	51.7	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類		十分達成
1	一	目的に応じて、理由や事例を挙げて明確に話す	○					○						○	53.8	0.4	B	80	60	▼
1	二	互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合う	○					○						○	61.3	0.3	A	85	65	▼
1	三	適切な言葉遣いで話す	○					○			○			○	82.9	1.3	A	85	65	
1	四	司会の役割を理解し、話し合いを進める	○					○						○	63.0	0.7	B	80	60	
1	五	聞いた事柄を基に、進行に合わせて発言する	○					○				○	○	○	59.1	3.6	C	75	55	
2	一	目的に応じて、内容の中心を明確にして見出しを書く	○						○					○	65.8	0.3	A	85	65	
2	二	分かりやすく説明するために、写真を取り上げて書く	○						○					○	80.4	0.4	A	85	65	
2	三	よりよい表現に書き直すために、文末表現に注意して書く	○						○					○	56.4	7.3	B	80	60	▼
2	四	書こうとすることの中心を明確にするために、理由や事例を挙げて書く	○						○					○	50.6	1.4	A	85	65	▼
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○						○			○	○	○	37.4	4.6	D	70	50	▼
3	一	登場人物の会話に即しながら読む	○						○					○	76.1	1.5	A	85	65	
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える	○						○				○	○	31.9	7.6	D	70	50	▼
4	一	段落相互の関係を捉える	○						○					○	27.6	2.4	A	85	65	▼
4	二1	目的に応じて引用する	○						○					○	47.5	3.9	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
4	二2	目的に応じて中心となる語を捉える	○					○		○			48.1	6.9	A	85	65	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「旗」		○				○		○			96.9	1.9	A	85	65	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「栄養」		○				○		○			95.6	2.1	A	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「博物館」		○				○		○			96.1	1.9	A	85	65	◎	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「鉄橋」		○				○		○			45.0	12.9	A	85	65	▼	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「研究」		○				○		○			65.4	8.9	A	85	65		
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「暑い」		○				○		○			73.3	4.5	A	85	65		
5	三1	主語と述語の関係を理解する			○			○		○			56.0	2.9	A	85	65	▼	
5	三2	主語と述語の関係を理解する			○			○		○			75.8	3.0	A	85	65		
5	四1	故事成語の意味と使い方を理解する「五十歩百歩」			○			○		○			57.9	4.6	A	85	65	▼	
5	四2	故事成語の意味と使い方を理解する「漁夫の利」			○			○		○			49.3	5.3	A	85	65	▼	
5	五①	ローマ字で書く「nori」			○			○		○			47.0	15.0	B	80	60	▼	
5	五②	ローマ字で表記されたものを読む「きって」			○			○		○			66.5	14.1	B	80	60		
5	五③	ローマ字で表記されたものを読む「きゃく」			○			○		○			56.5	16.2	B	80	60	▼	

[表2] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,221	68.0	1.9	80.2	60.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	4	64.0	1.1	76.3	56.3	
	書く	7	53.5	2.9	75.7	55.7	▼
	読む	6	55.4	3.2	76.7	56.7	▼
	漢字の読み	3	92.9	2.0	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	74.2	3.4	85.0	65.0	
	語句に関する知識	5	74.5	0.5	83.0	63.0	
評価の観点	①話す・聞く	4	64.0	1.1	76.3	56.3	
	②書く	7	53.5	2.9	75.7	55.7	▼
	③読む	6	55.4	3.2	76.7	56.7	▼
	④知識・理解・技能	11	79.4	1.7	84.1	64.1	
問題形式	選択式	14	67.6	0.7	81.1	61.1	
	短答式	7	81.4	2.6	83.6	63.6	
	記述式	3	38.2	6.0	68.3	48.3	▼
活用	「活用」に関する問題	9	55.0	2.9	75.0	55.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う	○						○							67.0	0.2	B	80	60	
2	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	○						○						78.8	0.1	B	80	60		
2	二 手紙の構成を理解し、後付けを書く	○						○						45.0	0.1	A	85	65	▼	
3	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む		○						○					71.4	0.2	B	80	60		
4	一 俳句の情景を捉える		○		○				○	○				77.0	0.2	B	80	60		
4	二 俳句の情景を捉える		○		○				○	○				54.3	0.4	B	80	60	▼	
5	ア ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる				○					○				89.9	0.5	A	85	65	◎	
5	イ ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる				○					○				83.6	0.5	A	85	65		
6	古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む				○					○				67.7	0.9	A	85	65		
7	1 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○					○				51.7	4.7	A	85	65	▼	
7	2 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○					○				85.2	2.2	A	85	65	◎	
7	3 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○					○				88.0	3.4	A	85	65	◎	
7	4 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○					○				94.1	1.3	A	85	65	◎	
7	5 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○					○				85.8	3.5	A	85	65	◎	

A問題

設問別集計結果

B
問題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
7	6	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○					○				96.6	1.3	A	85	65	◎
1	一	動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す	○					○			○			75.0	0.3	B	80	60	
1	二	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える	○					○			○			68.8	2.3	C	75	55	
1	三	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す	○	○				○	○			○	○	45.0	1.8	D	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える		○					○		○			67.1	0.4	B	80	60	
2	二	目的や意図に応じ、引用して書く		○					○		○			68.7	2.0	B	80	60	
2	三	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く		○					○			○	○	40.7	1.6	D	70	50	▼
3	一	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える			○					○		○		76.6	1.6	B	80	60	
3	二	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える			○					○		○		24.2	1.9	C	75	55	▼
3	三	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	○	○					○	○		○	○	28.8	14.7	E	65	45	▼

[表3] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,289	68.5	2.6	82.3	62.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	70.0	0.9	82.0	62.0	
	書く	5	57.8	1.1	81.0	61.0	▼
	読む	5	58.0	1.9	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	5	88.7	1.5	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	5	60.3	9.5	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	8	73.2	1.4	81.3	61.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	70.0	0.9	82.0	62.0	
	②書く	5	57.8	1.1	81.0	61.0	▼
	③読む	5	58.0	1.9	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	18	73.9	3.7	83.3	63.3	
問題形式	選択式	19	69.5	0.8	82.4	62.4	
	短答式	11	74.8	5.1	84.5	64.5	
	記述式	3	39.0	4.8	73.3	53.3	▼
活用	「活用」に関する問題	3	39.0	4.8	73.3	53.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	一	相手や場に応じた、適切な言葉遣いで話す	○					○							67.9	0.1	A	85	65	
1	二	目的や意図に応じて、話の構成を工夫して話す	○					○							88.9	0.1	A	85	65	◎
1	三	話し手の意図を捉えて質問をする	○					○							56.6	0.1	B	80	60	▼
1	四	考えたことや聞き出したいことなどから話題を決める	○					○							86.0	0.2	A	85	65	◎
1	五	話し手の意図に応じて、質問の構成を工夫する	○					○				○	○	50.5	4.0	C	75	55	▼	
2	一	図を基に、分かったことを的確に書く	○					○							74.6	0.2	A	85	65	
2	二	自分の考えを明確に表しているかを確認、書き直す	○					○							19.3	0.1	A	85	65	▼
2	三	表現の効果などについて確かめる	○					○							96.0	0.2	A	85	65	◎
2	四	目的や意図に応じて、図を基に、自分の考えを書く	○					○				○	○	24.5	4.4	D	70	50	▼	
2	五	自分の考えが伝わるように、図表を用いる	○					○							74.8	0.5	B	80	60	
3	一	登場人物の心情についての描写を捉える	○					○							77.9	1.6	B	80	60	
3	二	行動や情景などから、登場人物の気持ちの変化を捉える	○					○							82.8	0.3	A	85	65	
4	一	文章の内容を的確に押さえる	○					○							36.2	0.7	B	80	60	▼
4	二	文章の内容を的確に押さえて、要旨をまとめる	○					○							51.1	0.9	B	80	60	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	三	文章の内容を踏まえ、様式に合わせてまとめる		○					○			○	○	42.1	6.0	C	75	55	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「供える」			○				○					84.7	0.7	A	85	65	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「規律」			○				○					83.9	2.1	A	85	65	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「裁判」			○				○					98.2	0.8	A	85	65	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「至る」			○				○					90.6	1.5	A	85	65	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「簡潔」			○				○					85.9	2.4	A	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「導く」				○			○					86.1	6.8	A	85	65	◎
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「率いる」				○			○					63.3	11.4	A	85	65	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「功績」				○			○					26.8	13.3	A	85	65	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「貿易」				○			○					70.4	7.6	A	85	65	
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「快く」				○			○					54.8	8.3	A	85	65	▼
5	三1	熟語の構成について理解する「不」				○			○					93.6	1.0	B	80	60	◎
5	三2	熟語の構成について理解する「未」				○			○					88.3	1.0	B	80	60	◎
5	三3	熟語の構成について理解する「非」				○			○					82.1	1.0	B	80	60	◎
5	四	漢字の由来について理解する「校」				○			○					48.5	1.9	B	80	60	▼
5	五	和語・漢語・外来語の意味を理解する				○			○					71.5	1.5	B	80	60	
5	六	同音・同訓の漢字を正しく使う「実」「身」				○			○					28.4	1.5	B	80	60	▼
5	七1	慣用語の意味と使い方を理解する「馬が合う」				○			○					83.2	1.7	A	85	65	
5	七2	慣用語の意味と使い方を理解する「うり二つ」				○			○					90.2	1.7	A	85	65	◎

[表4] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,185	58.0	9.4	69.8	49.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	56.1	7.5	67.0	47.0	
	書く	5	49.0	8.7	69.0	49.0	
	読む	5	56.1	10.3	65.0	45.0	
	漢字の読み	5	76.2	5.8	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	5	62.6	13.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	49.5	10.2	72.5	52.5	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	56.1	7.5	67.0	47.0	
	②書く	5	49.0	8.7	69.0	49.0	
	③読む	5	56.1	10.3	65.0	45.0	
	④知識・理解・技能	16	61.9	10.0	72.5	52.5	
問題形式	選択式	8	64.0	2.2	71.3	51.3	
	短答式	17	61.0	10.6	72.4	52.4	
	記述式	6	41.2	15.7	60.8	40.8	
活用	「活用」に関する問題	4	43.0	13.9	57.5	37.5	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	一	意見を述べるために、必要な事実を根拠として取り上げる	○					○							69.0	0.4	A	75	55	
1	二	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	○					○				○	○		45.5	15.1	D	60	40	
2	一	相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す(敬語)	○					○				○			41.3	11.6	B	70	50	▼
2	二	必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する	○					○					○		81.2	0.8	A	75	55	◎
2	三	相手の発言を注意して聞き取り、発言を整理して自分の考えをまとめる	○					○					○	○	43.6	9.4	E	55	35	
3	一	材料を分類、整理して文章を構成する	○						○						87.2	0.8	B	70	50	◎
3	二	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする	○						○						25.1	16.8	B	70	50	▼
3	三	材料を因果関係に基づいて整理する	○						○						39.0	2.6	B	70	50	▼
3	四	根拠を明確にして自分の考えを書く	○						○						61.4	11.5	A	75	55	
3	五	段落の役割を考えて文章を構成する	○						○				○	○	32.3	11.9	D	60	40	▼
4	一	文章全体における段落の役割を捉える	○						○						26.7	22.0	C	65	45	▼
4	二	目的に応じて必要な情報を読み取る	○						○				○	○	50.6	19.3	E	55	35	
5	一	登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読む	○						○						86.2	2.8	B	70	50	◎
5	二	文章に表れているものの見方や考え方を捉える	○						○						64.0	3.2	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
5	三	表現の特徴について、自分の考えをもつ		○					○		○			52.9	4.2	C	65	45	
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「区域」			○				○		○			95.1	1.8	A	75	55	◎
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「稚魚」			○				○		○			63.8	13.2	A	75	55	
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「沿岸」			○				○		○			80.6	4.5	A	75	55	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「快い」			○				○		○			50.0	7.3	A	75	55	▼
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「犯して」			○				○		○			91.6	2.3	A	75	55	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「看病」				○					○			66.2	15.4	B	70	50	
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「干す」				○					○			79.7	13.5	B	70	50	◎
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「位」				○					○			89.6	6.9	B	70	50	◎
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「過熱」				○					○			10.5	20.6	B	70	50	▼
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「吸収」				○					○			67.0	12.6	B	70	50	
6	三	文の成分について理解する					○				○			37.5	8.4	B	70	50	▼
6	四	漢字の成り立ちについて理解する(部首を理解する)					○				○			57.4	14.4	B	70	50	
6	五	楷書の基礎的な書き方を理解する					○				○			32.9	3.0	A	75	55	▼
6	六1	歴史的仮名遣いについて理解する					○				○			38.1	9.5	A	75	55	▼
6	六2	文語のきまりを知り、古文と現代語訳を読み比べて、内容を理解する					○				○			82.5	9.7	A	75	55	◎
6	六3	文語のきまりを知り、古文を読み、古典の世界に触れる					○				○			48.5	16.2	B	70	50	▼

[表5] 中学3年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,223	74.4	2.6	70.4	50.4	◎

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	7	71.8	1.8	67.9	47.9	◎
	書く	8	67.5	4.1	65.0	45.0	◎
	読む	10	70.3	2.3	69.0	49.0	◎
	漢字の読み	3	96.2	0.7	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	3	72.2	11.4	75.0	55.0	◎
	語句に関する知識	13	70.3	2.9	71.5	51.5	
評価の観点	①話す・聞く	7	71.8	1.8	67.9	47.9	◎
	②書く	8	67.5	4.1	65.0	45.0	◎
	③読む	10	70.3	2.3	69.0	49.0	◎
	④知識・理解・技能	19	74.7	3.9	72.6	52.6	◎
問題形式	選択式	27	77.7	0.5	70.6	50.6	◎
	短答式	11	74.1	6.0	73.2	53.2	◎
	記述式	3	45.5	9.6	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	9	67.3	4.0	64.4	44.4	◎

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	話し言葉と書き言葉との違いを理解する					○				○	○			79.0	0.1	B	70	50	◎	
2	一 目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○					○				○			88.3	0.1	A	75	55	◎	
2	二 事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す	○					○				○			76.7	0.2	B	70	50	◎	
3	一 書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く		○					○				○		75.0	3.4	B	70	50	◎	
3	二 書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す		○					○				○		83.8	0.1	B	70	50	◎	
4	一 文章の要旨を捉える			○					○					79.4	0.1	B	70	50	◎	
4	二 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ			○					○					71.8	0.2	C	65	45	◎	
5	一 文章の構成を工夫して分かりやすく書く		○					○						79.4	0.2	B	70	50	◎	
5	二 目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる		○					○						91.7	0.1	B	70	50	◎	
6	一 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			○					○					71.4	0.3	B	70	50	◎	
6	二 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			○					○					58.3	0.4	B	70	50		
7	一 相手に分かりやすいように語句を選択して話す	○					○					○		49.5	5.3	B	70	50	▼	
7	二 話すための材料を人との交流を通して集める	○					○							78.4	0.4	B	70	50	◎	
8	一 文章の表現の仕方について自分の考えをもつ		○					○						80.5	0.7	A	75	55	◎	

A問題

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能				選択式	短答式	記述式	
8	二	文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする		○					○		○		70.4	1.0	B	70	50	◎
9	一1	文脈に即して漢字を正しく書く				○					○		64.6	15.1	A	75	55	
9	一2	文脈に即して漢字を正しく書く				○					○		64.0	12.4	A	75	55	
9	一3	文脈に即して漢字を正しく書く				○					○		87.7	6.7	A	75	55	◎
9	二1	文脈に即して漢字を正しく読む		○					○		○		98.9	0.6	A	75	55	◎
9	二2	文脈に即して漢字を正しく読む		○					○		○		95.0	0.6	A	75	55	◎
9	二3	文脈に即して漢字を正しく読む		○					○		○		94.4	1.0	A	75	55	◎
9	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○				○	○		79.3	0.8	B	70	50	◎
9	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○				○	○		61.6	0.6	A	75	55	
9	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○				○	○		88.1	0.6	B	70	50	◎
9	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○				○	○		94.8	0.5	A	75	55	◎
9	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○				○	○		93.4	0.6	A	75	55	◎
9	四	助詞の働きについて理解する				○				○	○		91.3	0.7	B	70	50	◎
9	五	事象や行為などを表す多様な語句について理解する				○				○	○		25.2	12.1	B	70	50	▼
9	六1	楷書と行書との違いを理解する				○				○	○		53.8	1.0	A	75	55	▼
9	六2	行書の特徴を理解する				○				○	○		62.8	1.2	B	70	50	
9	七1	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える				○				○	○		76.9	3.5	A	75	55	◎
9	七2	古典には様々な種類の作品があることを知る				○				○	○		77.5	1.4	A	75	55	◎
B 問題	1	一	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する		○					○	○		81.7	0.2	B	70	50	◎
	1	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する		○					○	○		83.0	5.3	B	70	50	◎
	1	三	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く		○	○	○			○	○	○	29.7	14.6	D	60	40	▼
2	一	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○					○		○	○	83.1	0.3	C	65	45	◎	
2	二	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	○					○		○	○	71.6	0.3	C	65	45	◎	
2	三	相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	○	○				○	○		○	55.0	5.8	D	60	40		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
3	一	集めた材料を整理して文章を構成する	○					○			○		○	73.0	0.5	C	65	45	◎	
3	二	目的に応じて必要な情報を読み取る		○					○		○		○	76.8	0.6	B	70	50	◎	
3	三	必要な情報を集めるための見通しをもつ	○					○				○	○	51.9	8.5	E	55	35		

(4) 地域別の状況

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大し、5学年中1学年で、縮小している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校5年生の3地域で、「おおむね達成」の基準に到達していない。[グラフ12]

[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H29	1.03	0.97	0.95	1.00	1.06	▲ 拡 0.11
	H28	1.00	1.02	0.96	1.00	1.03	0.07	
小学校6年生	国語	H29	1.01	1.02	0.96	0.98	1.02	縮 0.06
	H28	1.02	1.00	0.95	0.99	1.03	0.08	
中学校1年生	国語	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.99	拡 0.05
	H28	1.01	1.01	0.97	1.00	1.01	0.04	
中学校2年生	国語	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.95	0.07
	H28	1.00	1.04	0.97	0.98	1.00	0.07	
中学校3年生	国語	H29	1.00	1.03	0.97	0.99	1.00	0.06
	H28	1.00	1.02	0.96	1.01	1.01	0.06	

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

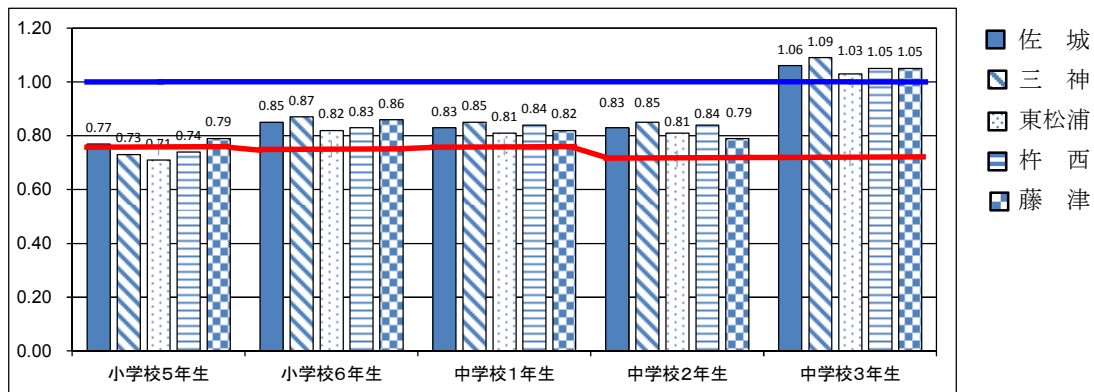
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成28年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町